

科目名	子ども家庭支援論						
科目名(英)	Family Support						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	保育士は「児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う」専門職として児童福祉法に位置づけられている。つまり、子育て支援に対しても専門的な知識や技術を有することを示す。現場においては、保育士がより効果的に家族を援助するために、ソーシャルワーク、カウンセリングの基本知識や技術を学び、援助することが求められている。3年次の児童福祉施設実習に向け、感じる力、深く考える力を身につけ、保育士としての役割を理解していく。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					家族援助の対象と役割について説明することができる。	
		○				家族の形態、機能、取り巻く地域社会について説明することができる。	
	○	○				虐待家族への支援について説明することができる。	
		○		○		児童福祉施設(養護系)における保育士の役割について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・橋本真紀・山縣文治 『よくわかる家庭支援論[第2版]』 ミネルヴァ書房 2019年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童福祉施設実習について(希望調査表配布)				児童福祉施設について理解しておく	
	2	児童心理治療施設、乳児院、児童自立支援施設について				児童福祉施設について理解しておく	
	3	科目ガイダンス、家族援助が求められている背景と意義について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	家族の形態、多様化する家族				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	家族の機能、家族を取り巻く地域社会の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	社会の変化と家族の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	子どもをめぐる諸問題とその背景				レポートの準備をしておく	
	8	児童虐待について				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと	
	9	虐待家族に関わる機関・施設・サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	児童相談所について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	虐待家族への支援について①子どもへの支援 ②親への支援				レポートの準備をしておく	
	12	乳児院における家庭支援について				乳児院の復習をしておく	
	13	児童養護施設における家庭支援について				児童養護施設の復習をしておく	
	14	母子生活支援施設における家庭支援について				母子生活支援施設について予習をしておく	
15	まとめ(科目試験に向けて)				科目試験に関する資料を準備しておく		
評価方法	(1)出席率(15分以上の居眠りは欠課とする)。(2)授業への参加状況(積極的な発言)。(3)小テストを4回実施する。(4)レポートを2冊提出する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席率				○		10%
	授業態度				○		10%
	小テスト	◎	◎				40%
レポート	○	◎		◎		40%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位取得はできない。						

科目名	子どもの食と栄養						
科目名(英)	Child Nutrition						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	大仁田あずさ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて専任教員として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	改訂保育所保育指針では、食育の推進において、(1)保育所の特性を生かした食育、(2)食育の環境整備等、さらなる食育の充実を図ることが求められている。本科目では、子どもの栄養・食生活が生涯にわたる健康と生活の基盤であることを理解し、さらに、栄養の基本的知識や発育・発達段階に応じた適切な栄養摂取と健康な食事のあり方を学ぶ。また、保育における食育の意義や現在、深刻化している食物アレルギーなどの特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応についても理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用について説明できる。	
	○					乳児期、幼児期、学童期・思春期の各時期における栄養・食生活について説明できる。	
		○				保育における食育の意義とその実践について具体的に述べるができる。	
				○		食物アレルギーを正しく理解することにより、給食での安全な対応ができる。	
			○			保育者として、子どもたちに正しい食育を実践するために、自身が健康で豊かな食生活を実現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	二見大介、高野陽 編著 『子どもの食と栄養』 北大路書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どもの心身の健康と食生活の意義-子どもの食生活の現状と課題			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再		
	2	栄養に関する基本的知識-栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再		
	3	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント-妊娠期・授乳期の栄養・食生活			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再		
	4	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活-乳汁栄養、離乳の意義とその実践			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再		
	5	幼児期の心身の発達と食生活-幼児期の食生活の特徴、間食の意義とその実践			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再		
	6	学童期・思春期の心身の発達と食生活-学童期・思春期の食生活の特徴、学校給食の重要性			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再		
	7	食育の基本と内容・方法-保育における食育の意義とその実践			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再		
	8	家庭や児童福祉施設における食生活と栄養			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再		
	9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養-食物アレルギー、障がいのある子どもへの対応			【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再		
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
履修上の注意							

科目名	子育て支援SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカー		
対象学科・学年	社会福祉科・2年						
授業概要	保育において不可欠な「子どもとの関わり方」について具体的な実践方法について「子育て支援」の視点・側面より検討し、その内容を実践する。具体的には、複数学年による「子ども食堂」の運営を通じて実践に向けて学科内のコミュニケーションから準備するとともに、保育学・子どもの発達段階についての見地を鑑みて実際の現場を通じて、子どもたちとの関わりについて経験を積むことで、実践する力を身につける。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				<input type="radio"/>		グループにおいて積極的な協力を実践することができる。	
		<input type="radio"/>				各年齢における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた骨子案を計画することができる。	
	<input type="radio"/>					積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目	グループに分かれて発表の計画を立案、協議、確認作業				子どもの発達課程について事前に調べておき、その状況にあった内容・課程を検討する。
	2	1日目	グループに分かれて発表の計画を立案、協議、確認作業				事前に各グループにて骨子案を計画、その内容に対して一旦の評価を受けて、再度の計画を立案する。
	3	1日目	グループに分かれて表現方法・発表の計画をシュミレーション				
	4	1日目	グループに分かれて表現方法・発表の計画をシュミレーション				シュミレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。
	5	2日目	計画・シュミレーションの内容を踏まえた各グループの実践				シュミレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。
	6	2日目	計画・シュミレーションの内容を踏まえた各グループの実践				他のグループの内容と自らの内容を重ねることで、今後の課題を明確にする。
	7	2日目	計画・シュミレーションの内容を踏まえた各グループの実践				他のグループの内容と自らの内容を重ねることで、今後の課題を明確にする。
	8	2日目	実践に対する振り返り・反省				
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				<input type="radio"/>		20%
	レポート作成		<input type="radio"/>				30%
	発表への準備と実践の状況	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		50%
履修上の注意							

科目名	幼児と健康SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	西門哲也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	体操教室を開講		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	幼児の運動あそびの必要性を知るとともに、発達・能力を把握する。また、運動あそびの展開及び運動の補助、安全管理や体育指導を身につける。「幼児体育」の授業で培った内容をもとに、実際の「運動会」を想定した計画とシミュレーションを行い、その中から幼児との関わりや留意点についての学びを深める。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					子どもたちの安全性を最優先事項とし、他学科・グループにて議論した上で計画を立案することができる。	
		○				各年齢における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた骨子案を計画することができる。	
				○		積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
			○			他グループが運営する競技に子どもに扮して模擬的に参加することで、実際の状況に沿った体験を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目 アイスプレイキング、模擬運動会の計画・準備			年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。		
	2	1日目 模擬運動会の計画・準備			年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。		
	3	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)			年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。		
	4	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)			年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。		
	5	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)			1日目の骨子案に対しての修正を加えた内容での計画の実践を試みる。		
	6	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)			1日目の骨子案に対しての修正を加えた内容での計画の実践を試みる。		
	7	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)			1日目の骨子案に対しての修正を加えた内容での計画の実践を試みる。		
	8	2日目 模擬運動会の実践に対しての振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品・演技			○	◎		70%
	グループでの協力状況				◎		30%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	音楽表現技術SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	森田ゆかり・亀谷栞		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	専門学校にて非常勤講師として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	<p>1・ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。</p> <p>2・音楽の基本的な理解と、音楽活動での様々な楽器の習得を目指す。</p> <p>3・歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力・チームワーク・理解力・向上心)を磨く。</p>						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
	○					楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。	
		○				歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
				○		他者からの助言がなくても、自分で解読し練習することができる。	
			○			自主練によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各自が用意した修了コンサートの楽譜						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)			各自譜読みを進めていく。		
	2	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)			各自譜読みを進めていく。		
	3	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)			各自譜読みを進めていく。		
	4	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)			各自譜読みを進めていく。		
	5	修了コンサート(リハーサル:ピアノ演奏・合唱)			演奏課題曲をしっかりと演奏する。		
	6	修了コンサート(リハーサル:ピアノ演奏・合唱)			演奏課題曲をしっかりと演奏する。		
	7	修了コンサート			演奏課題曲をしっかりと演奏する。		
	8	修了コンサート			演奏課題曲をしっかりと演奏する。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	修了コンサート(通し練習と本番の2回) を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	近畿大学九州短期大学スクーリング (修了コンサート)	◎		○		○	100%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	保育実習 I (保育所)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	保育士資格を取得するために保育所で行う実習。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ ①保育所における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようなようにつながるか理解することができる	
				○		実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる	
				○		自分なりの保育観や子ども観を深め確立する	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	10日間	<p>保育所実習では、以下の観点から保育所における保育がどのようなになされているかを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の内容、機能について理解する (保育所の1日の流れやプログラムの理解など) 2. 保育所における子どもの理解 (年齢(月齢)ごとの子どもの発達とその特徴など) 3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する 4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ <p>担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする ・各自の実習のねらい、課題を明確にする ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする 	
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習園の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者施設の立ち上げやケアマネジャーとして勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	前期で学んだ少子高齢社会の実情やそこにかかわる福祉専門職としての心構えを基礎に、高齢者施設実習を視野に入れ、より具体的な学びへつなげる。各論というべき介護保険制度について、その理念や成り立ち・介護認定やサービス種類を知り、ケアプラン作成のプロセスや概念を学ぶことで、他科目の理解へとつなげていく。また、終末期ケアや権利擁護等、社会福祉士・精神保健福祉士の専門領域について意識することで、人や命の尊さを再確認する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護保険制度の成り立ちや実情を知り、考えや意見を述べるができる。	
	○	○		○	○	生活の豊かさや平和について考え、相手の立場に立つ・尊厳の保持を意識して過ごすことができる。	
	○	○		○	○	高齢者が生きてきた時代を知り、その内容を今後の実習に活かせるようになる。	
	○	○		○	○	命の尊さや人権について学び・考え・行動することができる。	
	○		○	○		実習への心構えができる。	
テキスト・教材 参考図書	◎『よくわかる高齢者福祉』 直井道子・中野いく子 編 ミネルヴァ書房 ○時事話題 ○介護保険関係資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・アンケート記入			この科目の注意事項を伝えます		
	2	高齢者の支援について 事例検討			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	3	介護保険制度のしくみ その1 制度の概要			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	4	介護保険制度のしくみ その2 要介護認定の流れ			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	5	11月11日は何の日、実習を実りあるものにするために			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	6	介護保険制度のしくみ その3 サービスの内容・種類			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	認知症とは？ そのケアについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	ケアマネジメントの意義・価値について			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	ケアプラン・ケアマネジメントについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	地域包括ケアシステムについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	12月上旬の5日間			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	権利擁護について			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	高齢者虐待について			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	命 とは			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
15	まとめ 振り返り						
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※定期試験の解答欄に空欄があった場合は、1つにつき5点の減点とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト・レポート	◎	○				10%
	グループワーク・発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	安元照貴		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	障害者支援施設 施設長		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	相談援助に必要な理論とは「支援援助の現場を知っている力」、方法とは「伝える力と傾聴する力」である。この授業では障がいのある方、生活困窮者の支援の現場を知っていただき環境を理解することを重点に置き、そのうえで相談事業所の現場の内容、相談の実践をおこなっていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					各障がい者福祉サービス事業所の内容を学び、その事業の役割を説明することができる。	
	○					生活困窮者支援の内容を学び、その事業の役割を説明することができる。	
	○					各相談事業所の内容を学び、その事業の役割を説明することができる。	
		○					利用者様から、相談の内容を的確に聞き取れることができる
テキスト・教材 参考図書	社会福祉法人野の花学園のサービス事業						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	伝える力・聞く力(援助に必要な力を知る)					
	2	障がい福祉サービスの全体像(現在の福祉の事業内容を知る)					
	3	支援援助の実践(就労継続支援事業所)					
	4	支援援助の実践(就労移行支援事業所)					
	5	支援援助の実践(自立訓練事業所)					
	6	支援援助の実践(生活介護事業所)					
	7	支援援助の実践(施設入所支援・共同生活援助事業所)					
	8	支援援助の実践(児童発達支援・放課後等デイサービス事業所)					
	9	支援援助の実践(現場支援員の体験談)					
	10	支援援助の実践(救護ホーム)					
	11	支援援助の実践(利用者様保護者の体験談)					
	12	相談援助の実践(障がい者就労・生活支援センター)					
	13	相談援助の実践(障がい者基幹相談支援センター)					
	14	相談援助の実践(認定調査の体験)					
	15	相談援助の実践(認定調査の体験)					
評価方法	以下の項目にて評価 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表	◎					100%
履修上の注意							

科目名	社会保障 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	社会福祉士が相談援助を行う際に必要な社会資源及び諸制度等は社会保障制度に付随しているものである。社会保障制度を活用は必須条件であり、幅広い分野の知識を獲得する必要がある。この科目では、全体像の把握だけでなく各分野の制度の成り立ち、変遷も学んでいく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会保障制度の概要について説明することができる	
	○					社会保障に影響を与える日本情勢及び環境要因を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障の理解					
	2	社会保険と社会扶助の理解					
	3	社会保障の成立と福祉国家					
	4	日本の社会保障の範囲					
	5	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦前					
	6	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦後					
	7	高度経済成長期の社会保障					
	8	安定成長期の社会保障改革					
	9	バブル期以降の社会保障					
	10	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-家族の変化					
	11	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-ライフステージの変化					
	12	社会保障給付費からみた日本の社会保障の大きさ					
	13	社会保障給付費の推移					
	14	社会保障の財源					
15	全体のまとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	発言・質問・学習姿勢				◎		30%
履修上の注意							

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	原田剛		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	障害者施設支援員		
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	障害について考え、障害者がどのようなサービスや制度を必要としているのかを学ぶ。障害を理解し、制度を理解することの重要性を学び現場に必要な知識を身につける。 ①障害者の生活について理解する ②法律、制度等を理解する。 ③実際の支援について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				障害者福祉に関する法律制度等の概要を理解する。	
	○	○				福祉専門職(社会福祉士等)の役割や実際の業務等を理解する。	
				○		課題発表、グループワーク等を行い、障がいのある方の支援について理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版:障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ・ミネルヴァ書房:よくわかる障害者福祉						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	障害者を取り巻く社会情勢			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	障害者の生活実態			レポート課題について調べる		
	3	障害について考える・レポート課題発表			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	障害にかかわる法体系			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	障害にかかわる法体系			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	障害にかかわる法体系			レポート課題について調べる		
	7	法律、制度等に関するレポート課題発表			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	障害者自立支援制度①(障害者総合支援法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	障害者自立支援制度②(障害者総合支援法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	組織機関の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	専門職の役割と実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	障害者にかかわる専門職の価値・倫理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	多職種連携・ネットワーキング			レポート課題について調べる		
	14	障害者支援の現状と課題についてレポート課題発表			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	障害者支援における事例検討とサービス利用について/定期試験対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	①授業の中で小テストを4回実施。 ②レポート課題を3回(内容と発表で評価を行う) ③授業中に実施する小テストとレポート課題(提出・発表) 定期正試験で総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	小テスト		◎				30%
	課題レポート				◎		10%
	発表				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助演習Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	社会福祉科 2年生						
授業概要	これまでの相談援助実習を踏まえた上で児童福祉施設での実習に備えての準備を実施することができる。とりわけ、保育士のための視点ではなく、福祉専門職として「相談援助」の視点も踏まえて児童福祉施設とその対象者を理解することができる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					児童福祉施設の種類や位置づけについてさらに理解を深めることができる	
		○				他グループの発表を踏まえて、知識を共有するとともに、新たな情報を吸収することができる。	
				○		自主的に学び、理解を深めることができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童福祉施設の内容を調べてまとめる(インターネット・書籍にて)					
	2	児童福祉施設の内容を調べてまとめる(インターネット・書籍にて)					
	3	児童福祉施設の内容を調べてまとめる(インターネット・書籍にて)					
	4	児童福祉施設の内容を調べてまとめる(インターネット・書籍にて)					
	5	中間発表(各グループ・テーマに沿って、調べた内容をプレゼンテーション)					
	6	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する(中間発表の内容に修正を加える)					
	7	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する					
	8	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する					
	9	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する					
	10	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する					
	11	実習に向けてのシミュレーション準備(各種の施設別のロールプレイ)					
	12	実習に際しての着眼点や表現方法についての確認					
	13	実習に際しての着眼点や表現方法についての確認					
	14	実習に際しての着眼点や表現方法についての確認					
15	まとめ・振り返り						
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況	○		◎			70%
	積極的な参加状況				◎		20%
	提出物						10%
履修上の注意	10回未満の出席状況の場合、単位の付与を認めない。						

科目名	相談援助実習指導Ⅱ						
科目名(英)	Learning of Social Work Training Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカー		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	相談援助実習に向けての基礎知識と基本的な概念を身につけるとともに、実習に向けての基礎的な準備を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					PDCAサイクルとケアマネジメントの理念を理解することができる。	
		○				ケアマネジメントの一連の流れ(インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング)の論理について理解することができる。	
					○	アセスメント→プランニングの考え方を理解し、実際に計画を立案することができる。	
		○				相談援助実習を行う施設について理解を深めることができる。	
					○	相談援助実習Ⅰ・Ⅱにむけて、書類だけではなく、気持ちの面でも準備することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(実習のスケジュールについての確認)					
	2	ソーシャルワークとは?～実践者の取り組みを通じて考える～					
	3	ソーシャルワークとは?～目指す方向性について考える～					
	4	ケアマネジメントについて～理論と仕組みについて PDCAサイクル～					
	5	アセスメント・ケアプランについて(理論解説編)①					
	6	アセスメント・ケアプランについて(理論解説編)②					
	7	アセスメント・ケアプランについて(理論解説編)③					
	8	アセスメント・ケアプランについて(実践編)①					
	9	アセスメント・ケアプランについて(実践編)②					
	10	アセスメント・ケアプランについて(実践編)③					
	11	日誌の作成について					
	12	実習Ⅰ 実習生調査表・計画表の作成① ガイダンス					
	13	実習Ⅰ 計画表の作成① 作成1					
	14	実習Ⅰ 計画表の作成② 作成2 → 個人面談の予定へ					
15	実習Ⅰ 必要書類の準備・確認、不安な点を解消する						
評価方法	(1)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。(2)授業の内容にそった提出課題とレポートを課すこととし、その内容と提出状況を評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・授業参加度				○		60%
	提出課題	○					20%
	レポート	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	相談援助実習指導Ⅲ						
科目名(英)	Learning of Social Work Training Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカー		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	相談援助実習に向けての基礎知識と基本的な概念を身につけるとともに、実習に向けての基礎的な準備を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					PDCAサイクルとケアマネジメントの理念を理解することができる。	
		○				ケアマネジメントの一連の流れ(インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング)の論理について理解することができる。	
					○	アセスメント→プランニングの考え方を理解し、実際に計画を立案することができる。	
		○				相談援助実習を行う施設について理解を深めることができる。	
					○	相談援助実習Ⅰ・Ⅱにむけて、書類だけではなく、気持ちの面でも準備することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	相談援助実習Ⅰの振り返り①					
	2	相談援助実習Ⅰの振り返り②					
	3	アセスメント・プランニング 実践 ～クラスメイト編～ ①					
	4	アセスメント・プランニング 実践 ～クラスメイト編～ ②					
	5	アセスメント・プランニング 実践 ～クラスメイト編～ ③(発表)					
	6	実習Ⅱ 計画書の作成 作成1(実習Ⅰの状況を踏まえて)				計画書の下書きを各自で行った上で授業に臨む	
	7	実習Ⅱ 計画書の作成 作成2(実習Ⅰの状況を踏まえて)				計画書の下書きを各自で行った上で授業に臨む	
	8	実習Ⅱ 計画書の作成 作成3(実習Ⅰの状況を踏まえて)				計画書の下書きを各自で行った上で授業に臨む	
	9	実習Ⅱ 計画書の作成 作成3(実習Ⅰの状況を踏まえて)				計画書の下書きを各自で行った上で授業に臨む	
	10	アセスメント・プランニング 実践 ～事例編～ ①					
	11	アセスメント・プランニング 実践 ～事例編～ ②					
	12	アセスメント・プランニング 実践 ～事例編～ ③					
	13	日誌の作成について②					
	14	実習Ⅱ 必要書類の準備・確認、不安な点を解消する					
15	実習直前指導						
評価方法	(1)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。(2)授業の内容にそった提出課題とレポートを課すこととし、その内容と提出状況を評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・授業参加度				○		60%
	提出課題	○					20%
	レポート	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	相談援助実習						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	184時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカー		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	国家資格「社会福祉士」の受験資格に向けての現場実習である。実際に、高齢者福祉施設または障害者福祉施設での経験を元にソーシャルワークの現状を理解するとともに、ケアマネジメントの一連の流れと支援の現状を重ねることで、あるべき相談援助について深く考えることを目指し、今後の自身の課題を発見しそれに対して取り組むことができることを目指す。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					施設の概要、施設の日・一週間の流れ、利用者の概要について理解することができる。	
		○				「ソーシャルワーカー」の職務・役割について考え、現場のプロフェッショナルの状況から理解を深めることができる。	
				○		自身の目指すべき支援者の方向性のあるべき本来の姿を見出すことができる。	
				○		知識や技術にとらわれることなく、人間性を中心として積極的に利用者様や職員様と関わることで、自身の課題を見出すことができる。	
	○	○				ケアマネジメントの仕組みと流れの見地から、実際の支援現場について理解を深めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1～5日目 相談援助実習Ⅰ(5日間)			事前に実習先の施設についての情報をまとめておく。 また、実習の目標に対しての具体的な計画を立てておく。		
	2	6～14日 相談援助実習Ⅱ					
	3	帰校日指導			実習日誌を持参するとともに、これまでの実習中の状況を振り返っておく。		
	4	15～23日 相談援助実習Ⅱ			帰校日指導時の状況を踏まえて、その後の実習状況について振り返り、レポートをまとめておく。		
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習への参加状況				○	○	50%
	日誌の記入状況				○		50%
履修上の注意	出席率が90%未満の場合は、相談援助実習に臨むことを不可とする。 また、実習中に3日以上を欠席した場合は実習を中止とする。						

科目名	音楽表現Ⅱ-②						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	森田ゆかり・村上京子・西頭輝子・亀谷菜		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	学校にて非常勤講師として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科・2年						
授業概要	1・ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。 2・音楽の基本的な理解と、音楽活動での様々な楽器の習得を目指します。 3・歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力・チームワーク・理解力・向上心)を磨きます。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
	○					楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。	
		○				歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
				○		他者からの助言がなくても、自分で解説し練習することができる。	
			○		自主練によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・各自用意した修了コンサートの楽譜 ・合唱曲の楽譜						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	各自修了コンサート曲			各自譜読みを進めていく。		
	2	各自修了コンサート曲			各自譜読みを進めていく。		
	3	各自修了コンサート曲			各自譜読みを進めていく。		
	4	各自修了コンサート曲			各自譜読みを進めていく。		
	5	各自修了コンサート曲			各自譜読みを進めていく。		
	6	各自修了コンサート曲			少しずつ区切って練習する。		
	7	各自修了コンサート曲			少しずつ区切って練習する。		
	8	各自修了コンサート曲			少しずつ区切って練習する。		
	9	各自修了コンサート曲			曲想も兼ねて練習し始める。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。		
	10	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲想も兼ねて練習する。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。		
	11	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲想も兼ねて練習する。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。		
	12	各自修了コンサート曲 ・合唱			全体を通して弾けるよう進めていく。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。		
	13	各自修了コンサート曲 ・合唱			全体を通して弾けるよう進めていく。		
	14	各自修了コンサート曲 ・合唱			全体を通して弾けるよう進めていく。		
	15	ピアノ実技小テスト			テストで出来なかった箇所の復習。 曲全体をどう弾くかの再確認。		
	16	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲全体が仕上がるよう進めていく。		
	17	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲全体が仕上がるよう進めていく。		
	18	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲全体が仕上がるよう進めていく。		
	19	歌唱試験(合唱曲の一部) 試験終了後各自修了コンサート曲 ・合唱			曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱2曲の歌詞を覚える。		
	20	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱2曲の歌詞を覚える。		
	21	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱2曲の歌詞を覚える。		
	22	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱の音程の確認。表情豊かに歌えるよう練習する。		
	23	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱の音程の確認。表情豊かに歌えるよう練習する。		
	24	各自修了コンサート曲 ・合唱			曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱の音程の確認。表情豊かに歌えるよう練習する。		
評価方法	(1)ピアノ実技小テストを1回実施する。(2)定期実技試験(ピアノ実技試験(修了コンサート)と歌唱試験) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		ピアノ表現	歌唱表現	演奏技術	音楽的理解度	自主実行力	評価割合
	定期実技試験	◎	◎	○	○		80%
	小テスト			◎	○		10%
内申点					◎	10%	
履修上の注意	出席が17回に満たない場合は、定期試験、及び発表の受験資格を与えない。						

科目名	カウンセリング概論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	矢野隆子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	人材育成講師歴25年		
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	対人援助職者の役割は大きくなってきており、社会福祉士にとって「カウンセリング」の知識、技法は資質として欠かすことの出来ないものとなってきている。信頼できる援助者としてカウンセリングの知識技法を修得するとともにカウンセリングマインドを身につけて、支援を必要とする人の立場に立って行動ができるようになることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					相談者が抱える問題の相談に対応できるカウンセリングの諸理論と方法を説明できる	
		○				カウンセリングの現場における相談者の問題に対して対応策を設定してそれを説明できる	
		○				援助者として身につけるカウンセリングマインドの重要性を説明できる	
		○				カウンセリングスキルを身につけ、相談された際にどのように対応したらよいか説明できる	
			○			他者からの助言がなくても相談者のもつ心理的、社会的側面へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	カウンセリングの原理 誠信書房 國分康孝・医療/福祉/保育のカウンセリング滋慶科学研究所・入門カウンセリングワークブック 日精研心理臨床センター編 福山清蔵						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス 構成的グループエンカウンター					
	2	カウンセリングの基礎基本 定義 歴史 基本的態度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	カウンセリングの基礎基本 カウンセリングのプロセス、はじめ方終わり方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	カウンセリングの基礎基本 ラポール、転移逆転移、倫理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	カウンセリングの基礎的技法 受容 共感傾聴 ロールプレイング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	カウンセリングの基礎的技法 感情の明確化、要約、質問技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	カウンセリングの基礎的技法非言語的コミュニケーション、ロールプレイング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	カウンセリングの理論 クライアント中心療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	カウンセリングの理論 精神分析療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	カウンセリングの理論 行動療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	カウンセリングの理論 論理療法 ゲシュタルト療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	カウンセリングの理論 分析的な心理療法 交流分析 折衷主義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	心の病気と心理アセスメント 統合失調症 気分障害 依存症			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	心理アセスメント 行動観察 心理検査 知能検査 人格検査			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	心理アセスメントの基礎と技法 事例検討			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する (2) 授業への参加態度(グループワーク・ふり返りシート提出) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				90%
	グループワーク	○			◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない						

科目名	就職実務 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	若狭恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	知的障害児・者施設にて保育士・支援員として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「就職」を考える			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	2	就職環境を知ろう			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	3	自己分析とキャリアプランニング			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	4	仕事のことを研究しよう			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	5	自己表現			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	6	企業・施設アプローチ			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	7	就職研修①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	8	就職研修②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	以下の項目にて評価 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	出席が2/3未満の場合は評価対象外となる。						

科目名	交流ゼミⅡ					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	専門学校常勤講師として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科2年生					
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介				
	2	グループ内でのレクリエーション				
	3	グループ内でのレクリエーション				
	4	グループ内でのレクリエーション				
	5	グループ内でのレクリエーション				
	6	グループ内でのレクリエーション				
	7	社会福祉科「交流会」に向けての準備				
	8	社会福祉科「交流会」に向けての準備				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	姿勢・態度				◎	
						評価割合
						100%
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					